



編集・発行 山見乃勢能宗蓮  
日蓮宗 広報部  
〒563-0132  
大阪府豊能郡野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

### 信仰は懺悔から

倉橋 観隆

鬼子母神様は元は鬼神でした。人間の子供の肉が大好物でそれを食べて母乳にして我が子を育てました。それがお釈迦様の教化を受けて改心し子供を守る善神になったというお話はよく知られています。

お釈迦様のお弟子には同じような経緯を持つ方が他にもいます。その人の名はアングリマーラ。「指切り悪魔」という意味です。本名はアヒンサというバラモン教の修行者でした。本来立派な修行者だったので、ある日彼の師匠が留守の間に日頃から彼に好意を持っていた

師匠の妻が誘惑してきました。それをねのけたアヒンサに妻は逆ギレ。自ら服を破り戻って来た主人にアヒンサに乱暴されたと告げ口したので。師匠は怒ってアヒンサに「お前が修行を完成させる術は千人の人間を殺してその指を切り取りそれで首飾りを作ることだ」と言ったのです。アヒンサは悩みましたが師匠の言うことは絶対です。翌日からアヒンサは殺人鬼アングリマーラに変わったのです。もうあと一人で首飾りが完成という時、出会ったのがお釈迦様でした。「動くな、生まれ」脅迫してきたアングリマーラにお釈迦様は答えました。「私はすでに止まっています。

私の中の殺生という悪心はすでに止まっている。止まっていないのはそなたの方だ。悪心を止めよ」アングリマーラはハツとしてその場にうなだれてしまいました。彼はやっと救われたのでした。

仏弟子になったアングリマーラは托鉢に出ます。すると今までの所行により街の人々から苛烈な迫害を受けます。しかし決して抵抗

はしません。「総ての命を二度と奪わない」この誓いを生涯守り切ったのです。アヒンサとは「不殺生」という意味でした。

日蓮聖人は「小罪なれども懺悔せざれば悪道を免れず。大罪なれども懺悔すれば罪消える」と教えて下さっています。信仰は懺悔に始まり懺悔に終わるのです。懺悔は最高の祈りなのです。

### 《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

深く

諸の邪見に入って

苦を以て

苦を捨てんと

欲す

『方便品第二』

みな仲間と友達だから

邪なものを見方を止めようよ  
いじめという名のウイルスが心のネットに繁殖し  
次から次へと苦を生み出して  
いじめられたりいじめたり  
惨めな結果を招いている  
正しい見方を身につけようよ

### 【5月の主な行事】

- ★写経会 12日(日)11時
- ☆妙見大菩薩年大祭 15日(水) 11時 特別加持
- 11時50分 講談(一龍斎貞鏡)
- 13時 星嶺にて祈願法要
- ※特別加持祈禱ご希望の方は事務所にて受け付け中です。
- ★星嶺演奏会 19日(日)11時 フルートの生演奏
- ★星嶺茶論 19日(日)13時 太鼓教室です。初心者歓迎。
- ★鷗様月例祭 22日(水)15時 ※火伏守札を授与

### 【6月の行事予定】

- ★写経会 9日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(土)13時
- ★星嶺演奏会 16日(日)11時 トランペットの生演奏
- ★星嶺茶論 16日(日)13時 太鼓教室です。初心者歓迎。
- ★鷗様月例祭 22日(土)15時 ※火伏守札を授与

### 《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト毎日運行中

一期一会

中山教諒

高校の課外授業で私は茶道を履修した。茶道は日本の伝統的文化である。その始まりは、仏前への献茶、作法を取り入れたことだ。また、平安時代には修行僧が眠気覚まし、病の薬に御茶を服用していたらしい。茶道ではお客を招待して茶会を開くことがある。ある日、私は茶会での点前をする事になった。お点前とは自分が点てた御茶を人に飲んでもらうというシンプルな作法である。しかし大勢の人前でお点前する茶会に不安を感じた私は、茶道講師の先生に個人指導を志願した。けれども、茶会への緊張で私は練習に身が入らない。そんな私を見かねた先生は練習を中断し、突然茶道の大成者である千利休の逸話を語り始める。私は戸惑いながらも、先生

の逸話に耳を傾けた。

『利休がある日、上林竹庵という茶人から茶会に招かれて、弟子とその茶会に訪れる。竹庵は喜んで、お点前をするが、嬉しき感極まり、思うように御茶を点てれず失態を晒した。しかし、利休は「日本一の点前で御座る。」と竹庵に感心して茶会を後にする。すると、利休の弟子が「なぜあんなお点前を日本一と褒めたのですか。」と訊いた。利休は「私を茶会に招く者は、邪念を抱く。自分のお点前を誇示し、希少な御茶の自慢をする等、態度と行動で一目瞭然だ。けれども竹庵は違う。茶会へ招いた私たちを歓迎し、一服の御茶を飲ませたいと心込めてお点前に臨んでいた。私は竹庵の心持ちに感心したのである。』と答えた。

私が茶会に緊張していたのはお点前の失敗を恐れたからだ。つまり、自分のことを大切にしていきたい。

最近は一静かにたき火を眺めるソロキャンピングが流行という。もしかして、情報にさらされない時間を求めてたき火を眺めに行くのかなと思う。ケータイでいつも誰かと繋がり、好き嫌いかかわらずネットやテレビで大量の広告や情報が流れてくる。こ

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

んな毎日が続くと頭の中の情報の処理が追いつかなくなり、大事なことが何か次第に分からなくなっていく。そんな時ソロキャンプも良いが、少しの間お寺で掃除をしてみてはどうだろう。心の塵も払われ、スッキリした自分に出会えるかもしれません。

U.K

俳壇

（みのり）

薫風くんふうまなに眼細める鬼瓦

そぞろ行く思い出の道新樹光

山寺の大門古りて風清かぜさやか

夏近しスキップ弾む下校の子

柏餅味餡つつみ京の味

法華経茶話

化城喻（一）

この「化城喻」は衆生の功利的な信仰を、永遠の真理を求めめる大きな信心へと導こう、というお釈迦様の願いを示すものです。仏道（砂漠）は長く険しいけれど、真理（宝）はすぐ近くにある、と。この真理とは、仏法を指します。この比喻でお釈迦様はフィクションの「大通智勝如来」という仏を紹介されました。この仏はこの世に初めて出現された如来である、と。お釈迦様はこの一言で、真理は無限の過去から存在し、自分が始めて悟ったわけではない、とお説きになったのです。つまりこの喩えで、お釈迦様は仏法は自分が創作したものではなく自分はいくまでその仏法を悟った一人である、ということを説いているのです。そして、私達衆生もこの真理にたどり着ける可能性を持っていると示されたのです。